

第2回サイバーポート検討WG（港湾管理分野）議事メモ

【意見交換】

（委員）

今回、調査いただき、非常に膨大な中身となっている。ありがちなのは、システムを組んだはいいが中々使い勝手が悪いということで、資料の2ページに今後の予定を書いていたが、要望として、来年度、このシステムを作っていくにあたり、途中でプロトタイプができたところで、我々委員に対して「このようになった」とデモンストレーションしていただけるとありがたい。2点目に質問だが、これだけ膨大なものを進めていくにあたり、どうせなら世界で一番良いものがないという思いもあり、今回の調査の中で、諸外国の事例や、事業者に例えば「この国のこのシステムがいい」など調査されているのか、また、港湾統計について、先進と言われるような国の統計のやり方など確認されているのか、お尋ねしたい。

（委員）

前回のWGでも申し上げたとおり、我々の港では独自の港湾情報システムを立ち上げており、現在4次システムとして稼働している。電子申請率は80%を超えるものとなっており、今回、各港の独自システムとの連携について資料中で示していただいたことに感謝申し上げます。そのうえで、資料でも触れているが、NACCSと今回の港湾関連データ連携基盤、そして各港の独自システムとの連携について、今後、仕様をまとめていくにあたり綿密に連携をとらせていただければと思う。独自システムでは、施設等の管理だけではなく、料金面等にも触れているため、このあたりにも配慮いただいて、今後とも支援いただければと思う。

（委員）

今回、これだけの膨大な港湾情報についてサイバーで管理するというので、先ほどの意見でもあったが、このスケジュール感でできるのかという不安がある。もちろん国の方でもよく考えていると思うが、できるだけ早めに情報を提示いただき、例えば「もう少しこういったようにしてほしい」など、意見を言える機会を積極的に作っていただきたいと思う。また、港湾統計について、我々も6大港という中で情報を共有する場があるので、そういう場にも、ある程度骨格が見えた段階でお示しいただければと考えている。

（委員）

我々としては、皆さんと一緒に、コスト面の話と手続の簡素化の話である。現在、我々の港は独自のシステムがないので、なるべく良いものを作っていただいて、我々もそれに参加していきたいと考えている。

【事務局】

まず、プロトタイプの実演について、適切なタイミングでそういった対応をしっかりとできるよう、留意して進めたい。海外事例の調査について、港湾物流分野でも、海外の仕組み等々を勉強しているところなので、その関連で、必要に応じてこの港湾管理者の行政手続についても見ていきたいと考えている。また、港湾の独自システムについて、既によく使われているシステムがあるということです。しっかりと連携して進めてまいりたい。また、早めの条件提示については、実際の現場をわかっている港湾管理者の意見を反映できるように、前広にお話を伺うようにしたい。統計の関係について、主管課長会議等、様々な会議の場があるので、進捗状況について、適切なタイミングで紹介してお話を伺うようにしたい。また、港湾独自システムがない港湾管理者のお役にも立てるような仕組みを国として提供できるように進めてまいりたい。コスト面についても留意していきたい。

（委員）

まずは、これだけの膨大な資料をまとめていただき感謝。あまりシステムというところにこだわらず、その前にもう少し、全体を見ていただきたいという思いがある。例えば、NACCS のデータを買ったものの、CSV データを Excel データに変換できず、別途システムを構築しなければならないなど、港湾統計の話も、そもそもの本質から議論しないと、今やっていることを表面的にシステム化するだけでは大きな問題が残ると感じている。また、他からも意見があったが、施設の許可申請は、実際にはその前に民間の皆さん方が調整し、システムで申請し、そして最後に料金の徴収を行うといった流れがあるので、その全体の流れを是非見ていただきたいと思う。

（委員）

1 点目は利便性の観点で、我々の港湾では、国際拠点港湾、重要港湾及び地方港湾があるが、それぞれのユーザーで手続が異なっている。重要港湾以上用と地方港湾用とで画面を分けたりできるのかと気になっており、プロトタイプを早い段階で見せてほしい。もう 1 点は、資料の 11 ページの対応方針について、我々の中でも、全体で、こういった手続に関して、土木分野も含めてシステムを作ろうという動きがあり、スケジュール感を教えていただければと思う。

（委員）

統計業務について、今、我々の中でも働き方改革や業務改革といったことが言われており、先ほど海外の事例という話もあったが、どうぞよろしくお願ひしたい。加えて、手続の電子化のところ、図面のデータについて是非、連携・統合を検討していただきたい。我々が運用している EDI においては、図面が反映できず、見える化で苦労しているところである。

（委員）

資料の 8 ページに、申請窓口が近く持参しているとの記載があるが、やはり我々の港においても、事務所が近く持参されているケースがほとんどなので、いかに使ってもらえるようにするかということ、港湾管理者も含め国と一緒に考えたいと思っている。もう 1 点、我々の予算の要求もあるので、全体的な

スケジュール、特にお金に関係する部分は早くお示しいただけるとありがたい。

(委員)

詳しい資料を作ってください感謝。今後、具体的なシステムの仕様を検討されていくと思うが、やはり場合分けが必要ではないかと考えている。具体的には、例えば、アンケートの中で、港湾管理者から件数・頻度が多いものは電子化が有効であるとの意見があったが、逆に頻度が少ないものまで、全て細かく作りこんでいくのかというところは、費用や手間の兼ね合いがあると思う。どこかでラインを引いて、例えば1週間に1度しかないものは、その他としてメールで受け付けるなど、又は内航船/外航船といった、頻度や種別によって、システムの作りこみをどこまで進めていくのかということを検討の観点に加えていただければと思う。

【事務局】

まず、単にシステムだけに注力しないで、全体を見たうえで検討してほしいというご指摘について、そのとおりであり、統計についても、単にシステム化するだけでは駄目だと思っているので、統計業務の実態もつぶさに教えていただきながら、使い勝手の良い、使っていただけるような形にしていきたいと思う。また、重要港湾/地方港湾で分けられるかについて、港により手続の名称や項目が異なる場所もあるので、第1回WGでも触れたところであるが、それぞれの港に応じてカスタマイズできるような機能を付加できればと考えている。スケジュール感については、第3回WGをおこない、基本仕様を固めたうえで、来年度の前半に要件検討に取り組み、来年度の後半から機能構築ということで進めていきたいと考えており、これは第1回のWGでもお示しした通りであるが、より詳細についてはまたタイミングを見てお示ししていきたいと思う。また、作業の簡素化についても、しっかりと留意したい。図面データの話は、港湾インフラ分野とも連携を考えているので、そこでどう実現できるのかを考えていきたい。また、お金の面に関して早めに提示をとということについて、しっかりと務めていきたい。また、頻度等に応じた場合分けが必要ではないかというご指摘について、その通りだと思う。NACCSでも、頻度の高い手続は個別の業務として設定している一方で、頻度の低い手続は汎用申請等で処理していることもあるので、港湾関連データ連携基盤においても、一部の業務については汎用申請等で処理するといった形もあると思う。ご意見いただいた内容を参考にして進めていきたい。

(委員)

アンケート結果を拝見すると、具体的な現場の意見がわかりやすくまとめられている。是非、これらの意見を、貴重な声を、できる限り今後のシステム開発に反映していただきたい。中でも差し当たって、特にお願いしたいのは、NACCSとの二重入力にならないようにという点である。より多くのユーザーが港湾関連データ連携基盤を利用するための重要な要素となるので、配慮の程よろしくお願いしたい。もう1点、システムの最終形という点においては、各自治体での港湾事務が全国で平準化され、NACCS、それから各自治体の独自システム、これらが港湾関連データ連携基盤と一本化されることを望んでいる。来年発足されるといわれているデジタル庁が推進する、行政のデジタル化と同じ方向性で、官民両側における事務の軽減と利便性の向上、システムに係る使用料の低減、最終的にこれらが実現されることを希望する。

(委員)

今回のアンケート調査の中で、会員店社において「システムとはNACCSのことではないのか」との印象があった。その意味で、可能であれば、是非、全国紙で、世界の他の港とも比較した形で、国土交通省主導で、今こういったことをやっている、こういうシステムを導入していくといった記事を書いていただくと、大変、一般にも認知が高まると考えている。もう1点、例えばNACCSのように、この港湾関連データ連携基盤の端的な名称があるかお尋ねしたい。

(委員)

港湾関連データ連携基盤は、Web上での利用になると思うが、各社においては、社内システムとの連携を図るところもあるかと思う。その場合、モディファイするなど、連携を図るにあたり、新たな費用の発生も懸念される場所であるため、先ほどの意見でもあったが、できる限りデモンストレーション又は仕様設計図を適時公開していただきたい。また、今後考えられるとは思いますが、災害時において、どのようなバックアップ体制をとっていくのか、Webであれば臨時的にこのサイトにアクセスしてほしいなど、そういったところも今後考えていただきたい。

(委員)

実態把握やアンケートの実施及びとりまとめ結果の説明に感謝。我々としては、港湾物流分野のWGも含めて協力しており、引き続き国土交通省港湾局、それからNACCSセンターと知恵を出し合っていきたいと思う。

(委員)

今回の港湾管理分野においては、多くの港湾管理者の様々な業務について電子化しようということであるが、我々も入出港前の手続をさせていただいているので、今後よく議論・整理いただければ、我々としても協力したいと考えている。

(委員)

現在、住民基本台帳、税、社会保険といった地方自治体の17業務を対象に「地方自治体のシステムの標準化」が政府主導で取り組まれている。これにより、地方自治体がシステムを自ら所有するのではなく、国が主導して策定した標準仕様のシステムを地方自治体が利用するという形に転換が進んでいくと考えられる。港湾においても、このような国と地方自治体のシステムの関係整理が参考になると思われるので、こういった事例も研究いただき、我が国の港湾にあったやり方を引き続き検討いただきたい。

【事務局】

まず、NACCSとの連携については我々も強く認識しており、二重入力にならないようしっかりと対応したい。また、対外的なアピールについて、NACCSもありながら、より港湾行政手続全体としてどう利便性を高めるかということで、今、港湾関連データ連携基盤について検討しているので、打ち出し方も含めて勉強したい。名称については検討中であり、また決まった段階で提示できればと思う。また、社内システムとの連携について、早い段階でデモンストレーション又は詳細な設計の中身等々を提示できるよう努

めたい。災害時のバックアップについては、まだ留意できてない部分もあったので今後考えていきたい。また、引き続きよく相談してご指導いただきながら進めていきたい。

(座長)

全体の意見を伺うと、申請者側及び港湾管理者側のどちらとしても、やはり使いやすさということ、また将来使われるようなシステムであるべきとの心配があることがよく分かった。特に NACCS との住み分けは、十分留意して今後進めていただきたい。入力の手間や費用の面、これも大変心配のようなので、簡便・簡易に申請者が入力できることが必要と思われる。手続を受ける側の港湾管理者においても、やはり NACCS と上手く住み分けないと様々な問題があるということや、コストの問題があるので早めにスケジュールを明らかにしてもらいたいこと、プロトタイプができた段階で意見を積極的に聴取してほしいこと、また港湾統計の改革についても大変期待が高いことが分かった。こういった部分全てがシステムで消化できるわけではなく、今の業務の仕方も変えなければいけないので、全体的な業務の在り方を含めて今後議論を進めていただければと思う。